

(訂正後)



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月9日

上場会社名 リズム時計工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7769 URL <http://www.rhythm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 孝二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 奥田 伸一郎 (TEL) 048-643-7213
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	7,289	△5.3	165	44.0	215	19.5	70	△6.5
30年3月期第1四半期	7,699	3.0	115	—	180	346.9	75	—

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 395百万円(188.6%) 30年3月期第1四半期 136百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	8.49	—
30年3月期第1四半期	8.11	—

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	40,463	28,570	70.6
30年3月期	40,619	28,423	70.0

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 28,570百万円 30年3月期 28,423百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、平成30年3月期に係る「総資産」及び「自己資本比率」については、当該会計基準を遡って適用しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,000	1.1	480	45.4	580	51.0	320	67.5	38.73
通期	33,000	4.7	1,340	58.7	1,400	42.8	950	427.5	114.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	8,385,093株	30年3月期	9,385,093株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	122,224株	30年3月期	1,121,937株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	8,263,010株	30年3月期1Q	9,247,129株

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日）における世界経済は、米中貿易摩擦の影響、アジア新興国等の経済の先行きなどに留意が必要なものの、先進国を中心に堅調で緩やかな拡大基調を維持しました。

一方、わが国経済は、消費者マインドの持ち直しには足踏みがみられますが、設備投資や公共投資の執行、雇用・所得環境の改善により、景気は緩やかな回復基調にあります。

このような状況のもと、当社グループは、精密分野でのカテゴリNo.1の実現を目指し、取り組んでまいりました。売上高につきましては、接続端子事業が好調だったものの全体では国内、海外ともに減収となりました。営業利益においては、接続端子事業・プレジジョン事業の牽引と、電子事業の損失改善により、国内、海外ともに増益となりました。

以上から業績は次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

売上高	平成30年3月期 第1四半期連結 累計期間	平成31年3月期 第1四半期連結 累計期間	増減額	増減率
時計事業	2,429	2,113	△316	△13.0%
接続端子事業	2,166	2,303	137	6.4%
プレジジョン事業	1,751	1,612	△138	△7.9%
電子事業	1,268	1,156	△111	△8.8%
その他	83	103	19	23.2%
計	7,699	7,289	△409	△5.3%

(単位：百万円)

営業利益	平成30年3月期 第1四半期連結 累計期間	平成31年3月期 第1四半期連結 累計期間	増減額	増減率
時計事業	△104	<u>△119</u>	<u>△15</u>	—
接続端子事業	177	201	23	13.2%
プレジジョン事業	205	195	△10	△4.9%
電子事業	△65	△16	48	—
その他	10	14	4	44.1%
調整額	△108	△109	△0	—
計	115	<u>165</u>	<u>50</u>	<u>44.0%</u>

上記の営業利益に営業外損益を加えた経常利益は2億15百万円となり、前年同期1億80百万円に対し、19.5%の増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金等調整前四半期純利益に税金費用を計上した事により70百万円となり、前年同期75百万円に対し、減益となりました。

これらをセグメント別に見てみますと次のとおりです。

①時計事業

時計事業におきましては、国内では、新型開発強化に積極的に取り組んだことにより新型の売上は前年に比べ増加しておりますが、クロック市場の縮小及び量販店での売上減少により減収となりました。利益面につきましては、新型の原価低減などにより原価率は改善いたしましたが、売上減少により営業損失となりました。

海外では、米国のインターネット向け販売は伸びが見られるものの、他市場での売上減少もあり減収となりました。また、利益面につきましては、ベトナム工場の損益改善、販管費の削減等が進んではいらぬものの、海外全体では原価率の悪化等により営業損失となりました。

これらの結果、時計事業全体では減収、営業損失となりました。

②接続端子事業

接続端子事業におきましては、国内では、家電・自動車・AV機器向けの部品が堅調に推移し、増収となりました。利益面につきましては、原材料価格の高騰や設備投資による費用増加などにより減益となりました。

海外では、インドネシアでの自動車や二輪向け部品の受注が好調に推移し増収となりました。利益面につきましても、原材料価格の高騰がありました。しかし売上増加と合理化・省力化の効果により増益となりました。

これらの結果、接続端子事業全体では増収増益となりました。

③プレジジョン事業

プレジジョン事業におきましては、国内では、工作機械部品が好調に推移するものの、光学機器関連の受注が減少し、全体では減収となりました。利益面につきましては、合理化の推進により増益となりました。

海外では、主力のベトナムでの受注減少などにより減収減益となりました。

これらの結果、プレジジョン事業全体では減収減益となりました。

④電子事業

電子事業におきましては、国内では、EMS製品の受注増加により増収となりました。利益面につきましても、売上増加と構造改革の効果により前年の営業損失から黒字化いたしました。

海外では、中国での加飾部品が堅調も、ベトナムのEMS製品の在庫調整により減収、営業損失となりました。

これらの結果、電子事業全体では減収、利益面につきましては前期より改善しましたが営業損失となりました。

⑤その他

物流事業その他事業につきましては、物流子会社におけるグループ外での受注拡大により増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は404億63百万円となり、前連結会計年度末406億19百万円に比べて1億56百万円減少しました。流動資産は、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ4億63百万円減少しました。固定資産は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ3億7百万円増加しました。

(負債)

負債合計は118億92百万円となり、前連結会計年度末121億95百万円に比べ3億3百万円減少しました。流動負債は、支払手形及び買掛金に加え、未払法人税等の減少等により前連結会計年度末に比べ3億1百万円減少しました。固定負債は長期借入金の減少等により、前連結会計年度末に比べ1百万円減少しました。

(純資産)

純資産合計は、285億70百万円となりました。為替換算調整勘定等の増加により前連結会計年度末284億23百万円に比べ1億46百万円増加しました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期（連結）会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末（前事業年度末）の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年5月15日に公表しました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,497	9,547
受取手形及び売掛金	5,559	4,803
電子記録債権	1,843	1,817
有価証券	1,000	1,000
たな卸資産	<u>7,309</u>	<u>7,598</u>
その他	757	743
貸倒引当金	<u>△224</u>	<u>△234</u>
流動資産合計	<u>25,741</u>	<u>25,277</u>
固定資産		
有形固定資産	<u>7,857</u>	<u>8,274</u>
無形固定資産		
のれん	1,388	1,339
その他	<u>483</u>	<u>435</u>
無形固定資産合計	<u>1,871</u>	<u>1,774</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	3,327	3,276
その他	<u>1,928</u>	<u>1,963</u>
貸倒引当金	<u>△107</u>	<u>△104</u>
投資その他の資産合計	<u>5,148</u>	<u>5,135</u>
固定資産合計	<u>14,878</u>	<u>15,185</u>
資産合計	<u>40,619</u>	<u>40,463</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,205	3,159
短期借入金	312	352
1年内返済予定の長期借入金	245	97
未払法人税等	<u>337</u>	207
賞与引当金	221	221
役員賞与引当金	17	—
その他	1,484	1,483
流動負債合計	<u>5,823</u>	5,522
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	86	77
退職給付に係る負債	753	755
その他	532	536
固定負債合計	<u>6,371</u>	<u>6,370</u>
負債合計	<u>12,195</u>	11,892

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,372	12,372
資本剰余金	9,806	7,584
利益剰余金	<u>6,760</u>	<u>6,582</u>
自己株式	△2,492	△271
株主資本合計	<u>26,446</u>	<u>26,268</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	796	755
為替換算調整勘定	1,205	<u>1,542</u>
退職給付に係る調整累計額	△25	4
その他の包括利益累計額合計	1,977	<u>2,301</u>
純資産合計	<u>28,423</u>	<u>28,570</u>
負債純資産合計	<u>40,619</u>	<u>40,463</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	7,699	7,289
売上原価	5,813	5,480
売上総利益	1,885	1,808
販売費及び一般管理費	1,770	1,643
営業利益	115	165
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	58	67
受取賃貸料	46	45
信託収入	46	27
その他	11	14
営業外収益合計	163	157
営業外費用		
支払利息	10	10
出向費用	37	30
賃貸費用	27	13
信託費用	11	11
為替差損	4	36
その他	7	5
営業外費用合計	98	107
経常利益	180	215
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	0	0
固定資産売却損	—	3
特別損失合計	0	4
税金等調整前四半期純利益	180	211
法人税、住民税及び事業税	136	162
法人税等調整額	△31	△20
法人税等合計	105	141
四半期純利益	75	70
親会社株主に帰属する四半期純利益	75	70

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	75	<u>70</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	96	<u>△40</u>
為替換算調整勘定	△50	<u>336</u>
退職給付に係る調整額	15	<u>29</u>
その他の包括利益合計	61	<u>324</u>
四半期包括利益	136	<u>395</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	136	<u>395</u>

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年5月23日開催の取締役会決議に基づき、平成30年6月29日付で、自己株式1,000,000株の消却を実施しております。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ2,221百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末において資本剰余金が7,584百万円、自己株式が271百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	時計事業	接続端子 事業	プレジ ジョン事業	電子事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,429	2,166	1,751	1,268	7,615	83	7,699
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	—	18	1	23	182	206
計	2,433	2,166	1,770	1,269	7,639	266	7,905
セグメント利益又は損 失(△)	△104	177	205	△65	213	10	223

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	213
「その他」の区分の利益	10
セグメント間取引消去	12
全社費用(注)	△118
棚卸資産の調整額	△2
四半期連結損益計算書の営業利益	115

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	時計事業	接続端子 事業	プレジ ジョン事業	電子事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,113	2,303	1,612	1,156	7,186	103	7,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	0	12	6	28	167	196
計	2,122	2,304	1,625	1,162	7,215	270	7,485
セグメント利益又は損 失(△)	<u>△119</u>	201	195	△16	<u>260</u>	14	<u>275</u>

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>260</u>
「その他」の区分の利益	14
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	△114
棚卸資産の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>165</u>

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。